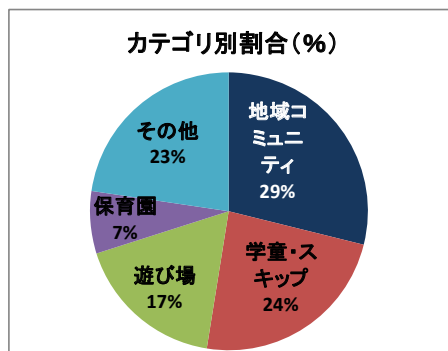
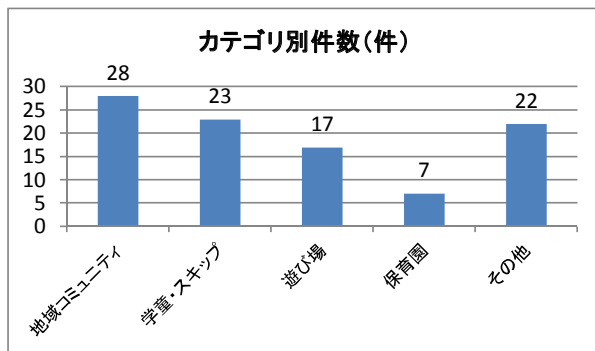


としまっ子ワールドカフェ 提案シート集計（件数）

カテゴリ		実施主体			合計
		区	住民	区・住民	
地域コミュニティ	1 行事・活動(祭・イベント・地域活動等)	7	12	1	20
	2 ご近所と協力		4		4
	3 地域の見守り体制		2		2
	4 その他(その他)	1		1	2
	合計	8	18	2	28
学童・スキップ	5 預かり時間の延長(朝と夜)	11			11
	6 環境(学習支援等)	5			5
	7 設置(設置数増加、スペース拡大等)	2			2
	8 対象(対象学年の拡大)	2	1		3
	9 その他	1	1		2
合計	21	2	0	23	
遊び場	10 公園	6	2		8
	11 プレーパーク	1	1		2
	12 その他	4	3		7
合計	11	6	0	17	
保育園	13 設置	5	1		6
	14 病児	1			1
合計	6	1	0	7	
その他	15 ファミリーサポート(制度周知、利用料補助等)	5	2		7
	16 図書館(放課後解放)	2	1		3
	17 その他	7	4	1	12
合計	14	7	1	22	
総計					97

※提案シートは全部で32枚であったが、1枚の提案シートにカテゴリの異なる案が複数記入されていた場合は、文章を分割して集計した。結果、97件となった。



としまっ子ワールドカフェ 提案シート集計(内容)

件数	カテゴリ	実施主体	内容
1	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	地域のつながりを深める(親同士が交流できる行事をたくさん行う。)
2	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	地域のつながりを深める(地域の行事の情報を効果的に発信する。)
3	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	大人く親く同士がつながる。(区はWCを取材し、PRする。)
4	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	子育てしやすい環境づくり(気楽に参加できる家族向けイベントを増やす。)
5	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	子育て関係のイベントを専門化(子育て団体とママをつなぐ。)
6	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	児童館や公園等ハードだけではなく、地域全体を「子どもの居場所」にする。(地域を巻き込んだイベントに対し、資金や情報発信の支援を行う。)
7	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区	住民に地域活動に参画してもらう。(区は活動のPRや窓口を行う。)
8	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	地域のつながりを深める(地域の行事に参加する。)
9	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	大人く親く同士がつながる。(WCを複数開催する。)
10	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	小学校を中心に3か所程度の安全で人目のあるエリア(公園や道路)で、子供を中心とした小規模なイベントを企画する。(当方マンションは、小学生の発案でイベントを行うことになり、世帯の半分が参加することになった。)
11	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	地域の祭の手伝い・参加を密に行う。
12	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	子どもの居場所を考える大人同士がつながる。(きっかけづくり、催し物等に参加する。)
13	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	子育て関係のイベントを専門家(先輩ママと現役ママがつながるために、ママ向けのイベントをやりたい。)
14	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	児童館や公園等ハードだけではなく、地域全体を「子どもの居場所」にする。(地域を巻き込んだイベントの実施・規格)
15	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	地域でつながりを作る。(マンションや近所の家でパーティー等やって、地域の交流する場をつくる。大人、子供、若者、高齢者の多世代交流。)とおじいちゃん、おばあちゃん
16	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	安心して遊べる・預ける場所の確保(祭に参加、区施設に行く等、地域のつながりをつくる。)
17	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	住民に地域活動に参画してもらう。(自分が参加する活動を通じて、住民等に顔を覚えてもらう。更に団体同士がつながり、顔見知りになる。)
18	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	住民に地域活動に参画してもらう。(反復することで信頼関係が深まる。)
19	1 地域コミュニティ(行事・活動)	住民	住民に地域活動に参画してもらう。(活動に参加することのメリット、デメリットを明記)
20	1 地域コミュニティ(行事・活動)	区・住民	地域の人が広く関わられるイベントを行う。
21	2 地域コミュニティ(ご近所と協力)	住民	子育て世代がつながる。(隣家、マンション内、小学校クラスの友人等に積極的に声掛けをする。)
22	2 地域コミュニティ(ご近所と協力)	住民	地域の人の目で子どもを守る。(日頃から近所づきあいをしてお互いの子供を知ってもらう。)
23	2 地域コミュニティ(ご近所と協力)	住民	高学年の子供の預け先が欲しい。(学童以外の居場所:ご近所の子育て家庭との交流)
24	2 地域コミュニティ(ご近所と協力)	住民	緊急の預け先の確保。(緊急の時は近所の家庭との預けあい。)
25	3 地域コミュニティ(地域の見守り体制)	住民	働くママが安心できるよう、子どもが1人になる時間がないようにする。(下校時刻に合わせて、犬の散歩・清掃をするなど、見守り体制構築)
26	3 地域コミュニティ(地域の見守り体制)	住民	安心して遊べる・預ける場所の確保(地域の目を子供に向ける。)
27	4 地域コミュニティ(その他)	区	子どもの居場所を考える大人同士がつながる。「つながる課」を設置し、情報発信を行う等支援を行う。)
28	4 地域コミュニティ(その他)	区・住民	児童館や公園等ハードだけではなく、地域全体を「子どもの居場所」にする。(町内会の拡充)
29	5 学童・スキップ(時間)	区	スキップの時間を19:00まで延長(職員の増員、学校のコンセンサスを取得)
30	5 学童・スキップ(時間)	区	学童・スキップの預かり充実(19:15まで延長、災害時の保護)
31	5 学童・スキップ(時間)	区	保育園と同じ預かり時間にする。(朝と夜)
32	5 学童・スキップ(時間)	区	学童・スキップの時間を19:00まで延長する。

件数	カテゴリ	実施主体	内容
33	5 学童・スキップ(時間)	区	スキップが終わった後の子供の預け先が必要。
34	5 学童・スキップ(時間)	区	学童の保育時間を延長する。(開門前と下校後)
35	5 学童・スキップ(時間)	区	保育園のように有料でも良いので、学童も預かり時間を延長する。
36	5 学童・スキップ(時間)	区	安心して遊べる・預ける場所の確保(学童を19:00まで延長、施設拡充)
37	5 学童・スキップ(時間)	区	安心して遊べる・預ける場所の確保(保育園同等19:00まで延長する。)
38	5 学童・スキップ(時間)	区	小1の壁を無くす。(学童の預かり時間を21:00までにする。)
39	5 学童・スキップ(時間)	区	学童の預かり時間を8:00～と～19:15に延長。
40	6 学童・スキップ(環境)	区	学童の集団を40人以下にする。
41	6 学童・スキップ(環境)	区	学童の環境を改善して、預け先でいやな思いをしないようにする。(学童の民間参入)
42	6 学童・スキップ(環境)	区	預け先(学童等)で学習ができるようにする。
43	6 学童・スキップ(環境)	区	学童やスキップ内で習い事をさせたい。
44	6 学童・スキップ(環境)	区	学童のおやつを16:00まで全員対象にする。
45	7 学童・スキップ(設置)	区	学童を、スキップ内・学校内に限らず設置する。
46	7 学童・スキップ(設置)	区	学童の数を増やして現在の満員状態を解消。
47	8 学童・スキップ(対象)	区	学童の対象学年を小6まで拡大する。(部屋の拡張・職員増員)
48	8 学童・スキップ(対象)	区	高学年の子供の預け先が欲しい。(学童の対象拡大)
49	8 学童・スキップ(対象)	住民	学童の対象学年を小6まで拡大する。(同意見の保護者の意見を収集・区へ提出)
50	9 学童・スキップ(その他)	区	学童をクラス分けて、子供への関与・働きかけを充実させる。
51	9 学童・スキップ(その他)	住民	父母のつながりを強める。
52	10 遊び場(公園)	区	公園を目的別に分ける(大人用、大きな・小さな子ども用、花火・ボール遊びができる所)
53	10 遊び場(公園)	区	遊び場を増やす。(秘密基地みたいなワクワクする所。泥んこになれる所。シャワー付で。)
54	10 遊び場(公園)	区	遊びやすい公園にする。(余り綺麗すぎる公園は作らない、何も無い方が想像力豊かに遊ぶ。無駄な規制を増やさない。)
55	10 遊び場(公園)	区	公園について、大人と子どもの使用場所を分ける。
56	10 遊び場(公園)	区	子どもが遊べる公園を増やす。
57	10 遊び場(公園)	区	安心して遊べる・預ける場所の確保(自転車、ボール、花火が遊べるよう、利用スペースの住み分け等、運用の見直し)
58	10 遊び場(公園)	住民	池袋西口のロータリー前の道路を1日遊び場にする。(道路の清掃、運営ボランティアの募集)
59	10 遊び場(公園)	住民	池袋西口のロータリー前の道路を1日遊び場にする。(車両封鎖、運営ボランティアの募集)
60	11 遊び場(プレーパーク)	区	プレーパークを午前から毎日開いてほしい。(毎日居るプレーリーダーの雇用)
61	11 遊び場(プレーパーク)	住民	プレーパークを増やす。(池袋本町のプレーパークを充実、周知)
62	12 遊び場(その他)	区	公園等ハードに限らず、子供が安全に遊べる場所を作る。(地域のサークルや団体への支援)
63	12 遊び場(その他)	区	公園等ハードに限らず、子供が安全に遊べる場所を作る。(各地域にコーディネーターの無料派遣)
64	12 遊び場(その他)	区	親が面倒に思わない、子ども自然体験教室(泥んこになって遊べる場(公園に限らず)の提供、場所の指定、法律的な問題の解消)
65	12 遊び場(その他)	区	親が面倒に思わない、子ども自然体験教室(泥んこになって遊べる場(定期で企画する:野菜を育てる、動物を育てて捌いて食べる等。服洗濯))
66	12 遊び場(その他)	住民	公園等ハードに限らず、子供が安全に遊べる場所を作る。(地域の見守り力アップ。グループづくり。)

件数	カテゴリ	実施主体	内容
67	12 遊び場(その他)	住民	公園等ハードに限らず、子供が安全に遊べる場所を作る。(遊べる場所のアイデアを出す。地域毎に事情が違うので、自分達で考える必要がある。その他運営の手伝い。)
68	12 遊び場(その他)	住民	学区外に遊びに行ってもいいと子供に言う必要はない。(板橋区「豊島区の遊び場に行かないように」とのプリントを配付している。)
69	13 保育園(設置)	区	認可保育園を増やす。かつ質の維持(保育士の増員、待遇向上)
70	13 保育園(設置)	区	育休明けの保育対策充実(保育園を増設し、受け入れ人数を増やす。)
71	13 保育園(設置)	区	待機児童をなくす。(育休明けや小規模事業所の後の受け入れ態勢を充実させる。かつ質の維持。)
72	13 保育園(設置)	区	保育園を増やし、預かり時間を延長する。かつ質の維持。
73	13 保育園(設置)	区	保育園を始め働く母が子供を預ける場所を増やす。
74	13 保育園(設置)	住民	認可保育園を増やす。かつ質の維持(WC等、意見交換で声を上げていく。)
75	14 保育園(病児)	区	病児保育を増やす。
76	15 その他(ファミリーサポート)	区	ファミリーサポート制度の利用料への補助を拡充(利用率を上げ収入を増やせば、利用料への補助が拡充できるのでは。)
77	15 その他(ファミリーサポート)	区	ファミリーサポート制度の情報発信(発信方法や内容を改善し、新たな利用者の発掘を行う。)
78	15 その他(ファミリーサポート)	区	ファミリーサポート制度の利用率向上(高く使えない場合もある。情報発信をサポーターの仕事のひとつとし、利用率を上げる。)
79	15 その他(ファミリーサポート)	区	ファミリーサポート制度を充実する。
80	15 その他(ファミリーサポート)	区	ファミリーサポート制度の改善(情報発信強化、長期利用や母子家庭への補助)
81	15 その他(ファミリーサポート)	住民	ファミリーサポート制度の情報発信(口コミレベルで発信していく。)
82	15 その他(ファミリーサポート)	住民	ファミリーサポート制度の利用率向上(サポーターの社会的意義や、やって良かったことなど発信する。)
83	16 その他(図書館)	区	各小・中学校の図書室を放課後、開放する。(本の購入、司書の採用)
84	16 その他(図書館)	区	図書館で宿題ができるようにする。(放課後図書館解放)
85	16 その他(図書館)	住民	各小・中学校の図書室を放課後、開放する。(本棚の整理を行う。)
86	17 その他(その他)	区	区施設へのアクセスを良くするために、コミュニティバスを今より細かく(図書館+支援センター+プール+体育館+保健所)巡回させる。(コミュニティバスの購入)
87	17 その他(その他)	区	「子ども家庭支援センター」の名称が重い(困っている人が行く所のイメージ)。もっと行きやすい名称に変える。
88	17 その他(その他)	区	区民にもっとヒアリングして何が必要かを把握してほしい
89	17 その他(その他)	区	子供の遊び場や放課後の居場所を増やす。(場所や資金の提供、情報発信)
90	17 その他(その他)	区	子どもの居場所である遊び場・学童・スキップの情報が欲しい(モバイルサイト・ママフレへの掲載)
91	17 その他(その他)	区	母子家庭で、母が帰宅するまで子を見てくれるシステム(不登校児、ひきこもりの子供達を受け入れる居心地の良い場所の提供)
92	17 その他(その他)	区	母子家庭で、母が帰宅するまで子を見てくれるシステム(遊び相手としてのボランティア確保、NPOへの助成)
93	17 その他(その他)	住民	子供の遊び場や放課後の居場所を増やす。(ボランティアとして手伝う。)
94	17 その他(その他)	住民	子供の年齢によって施設を分けるのではなく、全体として安心して見渡せる居場所を保っておく。
95	17 その他(その他)	住民	安心して遊べる・預ける場所の確保(小学校の開門時間前倒し)
96	17 その他(その他)	住民	WLBの大切さを勤務先に訴え、早く帰れるよう努める。
97	17 その他(その他)	区・住民	災害時の預け先(親同士の付き合いを蜜にし、緊急連絡先に「友人」欄を作る。)

過去情報整理シート【小学生の居場所】

※ワールドカフェでの意見は太枠表記

(チームで出た意見、フィールドワークのヒアリング、ワールドカフェでの意見等をまとめたもの)

大項目	中項目	小項目	意見	提案
預け先	学童保育・スキップ	対象学年	小4以降も預かってほしい	小6までの預かり(来年度実施?)
			対象学年・預かり時間を延ばせば、学童の集団生活をストレスに感じる子も増える	「つながり」へ (治安の不安を軽減し学童を卒業) 「質の向上」へ
		預かり時間	校門が空く前に1人にするのが心配	小学校の開門を早く。早朝保育 「ママ同士の預け合い」へ
			18:00終了では早い	延長保育(保育園と同等の19:15まで)(来年度実施?)
			非常時の対応	災害時の学級閉鎖等で、親が帰れない場合に子どもを一人で家に帰すのは問題
		食事	水道水しか飲めない	
			おやつ時間が17時と遅い	時間見直し。16時までに行う
			夏休みにお弁当を作るのが大変	夏休み給食サービス、ママ同士で給食当番
			帰宅後の夕食だと遅い	夕食サービス、学童以外での夕食(NPO主催等)
		質の向上(学童)	合わない子どももいる(嫌な思いをする)	子ども主体の運営(子ども自身による話し合いと取り組みを支援) 民間参入を促進
	もっとこまめに子どもに関わってほしい		1学童を40人以下のクラスに	
	宿題をもっとみてほしい(塾のような管理ではなく、一人一人に時間をかける)		職員を増員、ボランティアの募集を強化	
	質の向上(スキップ)	放課後教室プログラムの改良	企業のCSRを積極的に活用 ボランティアの募集を強化し学習支援	
	情報	学童・スキップの様子をより詳しく知りたい	ママ同士の交流支援、区報やWEBで情報発信	
	ファミリーサポートセンター	情報	周知してほしい。より詳しい情報がほしい	保護者が利用する施設などで広報
		経済的支援	利用費のサポートがほしい。(継続的に利用している場合やひとり親)	利用補助の制度を設ける
		質の向上	制度を充実させてほしい(積極的に稼働できるサポーターを増やす)	サポーターの意義ややりがいを発信
	その他	ママ同士の預け合い	近隣の子育て家庭と交流の機会がほしい	「つながり」へ
		行政サービス	切れ目のない子育て支援を(乳児～中学卒業)	

過去情報整理シート【小学生の居場所】

※ワールドカフェでの意見は太枠表記

(チームで出た意見、フィールドワークのヒアリング、ワールドカフェでの意見等をまとめたもの)

大項目	中項目	小項目	意見	提案
遊び場	スキップ	施設 <small>仰高、駒込、奥町、豊成、朋有、朝日、池袋第一、池袋第三、池袋、高南、長崎、要、椎名町、富士見台、高松、さくら、南池袋(学童室は区民ひろば内)、(清和(清和第一)、西巣鴨(西巣鴨第二))は区民ひろばと小学校施設を併用</small>	卒業生がお世話になった先生に会いたくも入れない	入れるよう運用を変える
			建物が小学校のため？寝転んだりできない	
			区立小の中なので、私立小の生徒が利用しづらい	施設数を増やす(小学校以外でも)
			落ち着いて宿題に取り組める環境を	放課後も学校図書室を解放(司書の採用)
			冬期も18時まで開所してほしい	運用を変える
			もっと場所を広く	部屋数を増やす・より大きい部屋を利用する 施設数を増やす(小学校以外でも)
			学童と未就学児と一緒に迎えできると良い。(不明点あり確認中)	
	区民ひろば	運用面での問題	区民広場等の施設存在・空き状況が分かりづらい	SNSでタイムリー配信、地域別。部屋利用の対象年齢を明記
	児童館 <small>池袋本町、千早</small>	運用面での問題	世代間交流はできるが様子分けしないと危ない	
	公園	施設の問題	狭い公園が多い	
			泥遊びなど、子どもが自由に遊ぶ余地が少ない	整備しすぎない公園(目的別)
			虫・草木・動物と触れ合える場所が少ない	自然の豊かな公園(目的別)
		運用の問題	幼児の遊び道具に犬の毛が付いている、タバコが落ちている	目的別に整備・運用
			ボール遊び、自転車練習、花火ができない	禁止事項のない公園(目的別)
			大きい子どもと小さい子どもが一緒にスペースで走り回ると危ない、大人が多いと遊びづらい	年代別の公園スペース(目的別)
			小学生未満は「うるさい」、中学生以上は「怖い、不良」との意見あり。近隣の理解が必要	「子どもと近隣住民が顔見知りになる機会」へ
	プレーパーク	常設プレーパーク(見守りのある自由外遊びの場)	各地に増設、池袋本町の充実(午前開始)	プレーリーダーの雇用 用地の確保(整備しすぎない公園)
			プレーカー	プレーパークを常設できない地域にプレーカーを プレーカーの配備・派遣
		臨時的遊び場	路地、例えば池袋西口ロータリーを時間限定で子どもに解放	
	その他	外遊びへの保護者の理解	保護者に自然体験・外遊び体験の機会が必要	

過去情報整理シート【小学生の居場所】

※ワールドカフェでの意見は太枠表記

(チームで出た意見、フィールドワークのヒアリング、ワールドカフェでの意見等をまとめたもの)

大項目	中項目	小項目	意見	提案	
その他	困難・障害を抱えた子の居場所	民間の居場所事業	必要としている家庭に届くようにPRが必要	学校や教育委員会、自治体との連携	
			小学生の行動範囲は狭いため各地にこのような場所必要(事業者)	場所探し、NPOへの助成、ボランティア確保	
	民間の居場所事業	NPOによる寺子屋等	施設利用について他団体と重複するため調整を行いたい。(事業者)	区の施設との連携	
			全体をとおして	連携	民間(事業者、NPO)はもっと自治体や教育委員会と協力し合いたいと感じている
	つながり	行政によるニーズ把握	安全	犯罪・事故が心配(とくに移動時や公園)	下校時の地域での見守り、見守りエリアの設定
			子育て家庭を含め、地域のつながりづくりの場	子どもと近隣住民が顔見知りになる機会	グループ・イベントへの公的支援(地域毎。働いていても参加し易い、多様な人が関わられる)(コーディネーター派遣等)
			子育て家庭同士の交流の機会 子育て支援団体との橋渡し		情報発信(参加しやすいようメリット・デメリット等も詳しく) 保健所など保護者が必ず利用する施設や用紙を使い広報
			ワールド・カフェのような話せる場が沢山ほしい		

F 1 提 案

一本のバナナがもたらす子どもの笑顔、この町のつながり

「おはようバナナ！」



企画の趣旨

地域全体で子どもを育てていく文化を作ること、家庭にとって子育てをしやすくするというだけでなく、子どもを中心として地域全体が活性化していくというメリットがあります。こうした文化のある地域には、多くの子育て世帯、子ども達がやってくることになるでしょう。また、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣・文化を作ること、健全な子どもの育成にもつながります。このような文化・環境づくりとして、直接子どもと地域が繋がる事業を提案します。

事業の内容

朝子ども達が行く場所、例えば小学校の近く等に「おはようバナナスタンド」を設置して、バナナを準備。朝ごはんを食べないで登校する子どもが、立ち寄ってバナナを食べられるようにします。子ども達に朝ごはんの習慣を教え、地域の人とそこで交わす挨拶、会話によって、地域と子ども達のつながりのある地域社会を生みだします。

事業のポイント～なぜバナナか～

栄養がある、食べやすい、渡しやすい、安い、準備がしやすい、扱いやすいといった特徴がバナナにはあります。これは、この事業のやりやすさを助けるだけでなく、バナナさえあれば誰もが簡単に始められる活動として、あちこちの地域で少人数によってできることから、方法論として広がりを持っています。

実施要綱

開催頻度：1週間に1～2回

所要時間：7時50分～8時 準備

8時00分～30分 おはようバナナ実施

8時30分～35分 片付け、終了

必要物品：長机1つ、ゴミ袋、バナナ適量

必要人員：2名～3名（地域住民）

予 算：バナナおよび備品購入費（1回実施に際して3000円程度の見込み）

※地域の商店等を巻き込み、社会貢献活動として寄付あるいは安価に提供してもらえないかを声がけし、実現した場合はさらに低額となる。

関わる人たち

実施は区の事業として行うか、NPO や実行委員会等の組織に委託する。

地域小学校に活動の趣旨を伝えて理解協力していただく。

P T A や子ども会に活動の理念を伝え、参加者有志を募ってもらう。

民生委員、育成委員会、町会など地域組織とも連携し、参加者有志を募る。

ニーズと効果

【ニーズについて】

- ・豊島区の保護者対象のニーズ調査において、多様な年代の子ども達を育てる親たちの過半数が、子どもと地域との直接的なつながりを望んでいます。

Q：地域全体で子育てを支援していく「地域の子育ての力」を向上させるにはどのような取り組みを始めることが有効だと思いますか？

A：隣近所の人と子どもが顔見知りになり、声をかける関係を作るなどの回答内訳

就学前児童保護者 57.9%、小学生保護者 59.3%、中高生保護者 51.4%

- ・「子どもの居場所」について考えるワールドカフェ（平成 26 年 10 月 25 日実施）でも「交流、つながりが必要」という声が多数あがっています。
- ・特に貧困家庭に育つ子どもは十分な食事をとれていないことも多く、子どもの貧困対策にも役立ちます。

【効果について】

- ・「知っている関係」「知っている子ども」を増やし、おせっかいな大人、頼れることのできる子どもを増やす。つながりによって、子どもの虐待、いじめ防止、また高齢者の災害時救助の担い手育成の原点になりセーフコミュニティの整備の一助となる。
- ・通常の行事では、なかなか繋がりがきれない子どもに対して食を通じて繋がりを支えること（有機的なつながり）を試みることによって、確実に地域での顔見知り、声かけの関係が実現する可能性が高くなります。
- ・全ての子どもが空腹で授業を受けることが無くなり、学力の向上とともに、子どもの自尊心を育む一助となります。
- ・子どもは地域の宝。子どもの貧困の問題を、地域がサポートできる包容力こそ、**持続可能で子どもにやさしいまちづくりの原点**になる可能性を持っています。

チーム名	チームとしまっ子
メンバー	小幡有希子／神立行子／栗林知絵子／関森文字／藤井明／本間瑞穂
検討テーマ	親が働いている小学生の居場所
活動状況	<p>8月 9日 第①回F1会議</p> <p>8月23日 視察(豊島区ジャンプ長崎)</p> <p>8月28日 視察(豊島区学校内スキップ池袋)</p> <p>8月30日 第②回F1会議(前後に打合せ)</p> <p>9月12日 打合せ(WC、次回会議)</p> <p>9月18日 打合せ(WC会場候補①下見)</p> <p>9月20日 第③回F1会議(前後に打合せ)</p> <p>9月26日 打合せ(WC会場候補②下見)</p> <p>9月30日 視察(NPOでんでん子ども応援隊 北区)</p> <p>10月 6日 打合せ(今後のフィールドワーク)</p> <p>10月10日 打合せ(WC企画)</p> <p>10月15日 視察(NPO法人ふれあいの家「おばちゃんち」品川区)</p> <p>10月15日 視察(北品川児童センター 品川区)</p> <p>10月17日 打合せ(次回会議)</p> <p>10月19日 第④回F1会議</p> <p>10月22日 視察(豊島区学校外スキップ西巣鴨)</p> <p>10月23日 富士見わんぱくひろば(千代田区)</p> <p>10月24日 打合せ(WC準備)</p> <p>10月25日 WC開催</p> <p>10月30日 打合せ(WC提案とりまとめ)</p> <p>11月 8日 第⑤回F1会議(前後に打合せ)</p> <p>11月15日 池袋本町のみなさまにおはようバナナ説明会</p> <p>11月17日 視察(豊島区子ども家庭支援センター)</p> <p>11月26日 ワンポイントアドバイス</p> <p>11月30日 打ち合わせ、バナナ注文</p> <p>12月 2日 小学校、地域にチラシ配布とごあいさつ</p> <p>12月 3日 おはようバナナ実施</p> <p>12月 4日 打合せ(プレゼン準備)</p> <p>12月11日 第⑥回F1会議(前に打合せ)</p>
感想	<p>〈委員の募集について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「月1回の会議に出席して欲しい」という内容で勧誘され、「現実的には別途活動が必要となる点」「会議参加ではなく自主活動形式である点」「土日中心に行う点」が知らされておらず、結果「事前の話と違う」と不満を持つ方が散見される。 ◆月1回の会議出席と、保育があるということだけしか知らずに参加したので、会議日以外の活動の多さに負担を感じるがあった。 ◆活動内容について事前の周知が足りなかったように思えた。周知した上で募集した方が良い。

〈会議の運用について〉

- ◆F1世代の会議ということで、毎回保育対応があったのは良いと思う。
- ◆委員の「立ち位置・所属」を明確にして欲しい。ワールド・カフェ開催の際、各方面に調整をしたが、「どこに属する活動なのか」を確認される場面が多かった。事前に説明があると、より活動しやすいと感じた。
- ◆委員の「権限」と「制約」を明確にして欲しい。「飽くまで自主活動形式なので、それはご自分でやってください。」というものと、「それは区を通してもらわないと困る。」というものの線引きが不明確で、やりづらさを感じた時があった。

また、一般の感覚では何でもないことでも、「役所の関与する事業としては支障がある」という制約に何度かぶつかった。役所の感覚を知ることができて勉強になった一方、今後同様の事業を行う際は、その辺りの「感覚のすり合わせ」をするか、事前に明確な説明があると、より活動しやすいと感じた。

〈活動成果について〉

- ◆F1世代が直接区政にアイデアを提案するチャンスは今までなかった。こうして区政と直接対話することで温度差を縮めることが出来る可能性があると思う。
- ◆調査・研究を通して他区と比べることもあり、豊島区の家庭支援の手厚さを実感することができた。
- ◆調査・研究のおかげで、区の子育て支援サービスや、地域の活動のいくつかを知る事ができた。
- ◆F1会議の企画者と、毎月の会議に参加された役所の方々の熱意は素晴らしいと思った。
- ◆各チームの提案が毎回素晴らしく、調査を行う委員と、それら提案一つ一つに丁寧に回答して下さる職員の方を見て、豊島区がより好きになった。
- ◆調査・研究の過程で、様々な事業・活動の責任者の方々から懇切丁寧に説明をうかがうことができ、街づくりに関わることの楽しさを教えていただいた。会議内、チーム内でも、様々な属性の方々と交流でき、視野が広がった。
- ◆普段交流のない方々とチームで活動でき、楽しかった。また、豊島区愛の強い方々との意見交換を通じて、より豊島区が好きになった。

〈今後について〉

- ◆行政サービスの利用者・地域活動参加者としてはもちろん、ボランティアとしてサービス提供に参加することや、運営に関わることも、機会があればしてみたいと思う。
- ◆区長提案が終わり、これから実現に向けて市民と行政がさらに協議を重ね、多くの提案の実現を図っていただきたい。そのために今まで行政内の縦割りから横のつながり、多様な部署が協議できる関係を築いていただきたい。その姿勢そのものが、市民の行政信頼度につながり、互いにエンパワメントできる豊島区に成長すると思う。
- ◆今回の提案に対してのフィードバックをして欲しい。(採択の可否や理由等)